

中・露は、SU-35 の購入に関する協議書に署名
空軍重大ニュース

漢和防務評論 20130320

KDR 平可夫、YURI BASKOV モスクワ特電：

最近ロシア軍事工業界の指導者は、KDR に対し、「中国とロシアは SU-35 の購入に関する協議書 (CLEARANCE AGREEMENT) に署名した」と述べた。これは正式な購入契約 (CONTRACT) ではないが、この協議がもし順調に行けば中・露の戦略的パートナー関係が大幅に高まるであろう。

ロシア権威筋は、「協議中の購入機数は 24 機であり、技術移転は含まない。中国は SU-35 の 117S エンジンを含め今のところ如何なる技術移転も求めている。SU-35 が使用する IRBIS-E PESA レーダー及び 117S エンジンは現在世界最先端の技術であり、それを中国が欲しがっている、と我々は認識している」と述べた。

これは、ロシアの権威ある軍事工業界指導者が中・露の軍事協力関係が SU-35 の購入を通じて大幅に強化されることを認めたことになる。「現在具体的な技術の内容及び価格を協議中であり、正式契約の準備中である。概ね 2013 年末までには契約書に署名するだろう。協議の詳細な内容は、中国が如何なる武器システムを求めるかにある」と消息筋は述べた。

両国政府（軍事技術協力委員会）は協議書に署名し、中国は引き続きロシア武器輸出入総公司及びスホーイ航空機会社と具体的技術、特に SU-35 の単価について協議する。

この協議は政治的、軍事的意義が極めて大きいと KDR 主幹平可夫は考える。中国が購入契約に正式に署名する可能性は極めて高い。その理由は以下の通り。

1. 実際は政治的契約であること。習近平は、政権に就いて以来、今後数年間に日米との間で摩擦が発生することを内部講話で反復強調しており、外交の切り札としてロシアを選択し、ロシアとの政治、戦略的パートナー関係を全面的に強化することを決定した。したがって SU-35 の輸入は、政治優先で決定された。「如何なる武器貿易も、特に重要な武器貿易は政治が決定する」ロシアの消息筋はこのように強調した。

習近平の父親、習仲勲は、1950 年代に中央宣伝部長の職にあり、ソ連文化の影響を強く受けたため、習近平自身が米国ではなくロシアを好むようになった可能性が極めて高い。

2. 習近平は、軍事委員会主席になってから僅か 1 ヶ月の間に、鼎新戦術訓練センターを含む主要な空軍部隊を視察し、空軍重視の講話を行ったようだ。彼の軍への贈り物は何か？第一は SU-35 である。第二は海軍関連事業である。

3. 中国軍は、戦術・戦略空軍を高度に重視する時代に入った。軍事委員会副主席の許其亮を含め、中央軍事委員会に初めて 2 名の空軍出身者が入った。したがって SU-35 の導入案件は軍事委員会内部で容易に受け入れられたものと考えられる。

4. 中国空軍は、軍事技術の必要性から 117S エンジンのような最大推力 14500 KG に達する第四世代++エンジンを求めた。このエンジンがあれば、現在開発中の J-20 型戦闘機は超音速巡航能力を具備できるとともに、標準的第五世代戦闘機に脱皮できる。したがって中国空軍が最も重要視しているのは SU-35 のエンジンである。この点はロシア方面も良く理解している。しかも SU-35 の輸出を政治的に許可するのはプーチン本人である。消息筋はこのように述べた。

搭載レーダーを変更する可能性は基本的に小さい。IRBIS-E に関して、中国版 SU-35 用のソフトを若干変更することは可能だ。中国は価格を下げるために別のレーダーを選択する可能性がある」と述べた人がいたが、これに対してロシアの権威ある航空専門家は、「それは意味が無い。SU-35 の発電機的能力は大幅に強化されており、ピーク値 20 KW に達する IRBIS-E レーダーの需要を満たすことが出来る」と述べた。

その後、数個の中国技術代表団がロシアを訪問し、ロシア軍が現在使用中の SU-35S の研究と工場施設訪問を実施するであろう。

SU-35 が本当に中国空軍に導入された場合、アジア地区の空の戦略体制が大きく変わる。平可夫は次のように強調した。すなわち「上述の協議 (AGREEMENT) は、中国が必ず SU-35 を購入することを 100%保証するものではない。単に可能性が高いだけである。マラソン方式の交渉を通じて中国が獲得を希望する難関技術の獲得方法は、もっぱら旧来のやり方に従っている。冷戦時代、中国は、米国と”ピースパール”計画を立ち上げ、中国国産の J-8 II 型戦闘機を改良しようとした。またロシアとは J-8 II M 型の改良計画に署名した。

しかしいずれもうやむやになり成功しなかった。問題は価格である。類似の交渉戦術では、中国が 117S のような高技術エンジンの製造技術を獲得することは不可能である。この点は中国も良く理解しているようだ。したがって本誌は中国が SU-35 を購入する可能性が極めて高いと考える」と。

中・露のレーダー技術協力について、中国が再びアプローチした形跡がある。PHAZOTRON 設計局の主任設計師 YURY.GUSKOV は、KDR に対し「PESA (パッシブ・フェーズド・アレイ・レーダー) の共同開発の可能性について現在協議中である」と述べた。このことは、中国のこの種レーダーの開発が依然困難であることを示している。

以上